

2023年11月21日

**冬は室内の空気が特に気になる季節。『室内の空気環境に関する調査』を実施  
「ウイルス対策として推奨されている換気」を実施できている人は1割程度  
～冬に窓開け換気ができないのは寒さ、光熱費、窓の開け閉めの手間等が課題～**

パナソニック ホームズ株式会社の「暮らし研究室」は、風邪やインフルエンザなどの感染症が蔓延しやすい冬の季節の、住まいにおける空気環境への意識や対策について生活者に伺う『室内の空気環境に関する調査』を2023年11月に実施しました。

同調査の結果、生活者の8割以上は「家で感染症対策をしたい」意向があること、また、その対策として7割以上が「手洗い・うがい」と「換気」をしており、大きな割合を占めることが分かりました。また、「換気」の具体的な方法について聞いたところ、「窓を開ける」が約8割で最も多く、次いで「トイレと浴室の換気扇を常時回している」が約3割で続いており、窓開け換気が圧倒的に多い結果となりました。

一方、厚生労働省は、ウイルス対策に有効としている換気方法として、「30分に一回以上、数分間程度、窓を全開する」(建築基準法での必要換気量の4倍に相当)ことを推奨しています。<sup>※1</sup>

今回の当社調査で、この推奨基準を知っている人は27.1%に留まり、多くの人には知られていないことが分かりました。さらに、「窓開け換気」をしている人の中でも、厚生労働省の推奨基準で換気を行っている人はわずか13.0%しかいないことが分かりました。推奨基準での窓開け換気が難しい理由としては、外の冷気が入ることによる寒さ(室内の温度低下)や冷暖房機器の運転増加に伴う光熱費増加への懸念、窓開閉の煩わしさ等が影響していることが伺えました。

今回の調査により、換気が感染対策に重要であることは認知されているものの、感染対策として有効なレベルでの窓開け換気<sup>※1</sup>が実生活で普及することには、生活者の意識課題があることが分かりました。

当社は、窓開け換気が難しい場合においても、住まいで可能な対策として、以下の二つが重要と考えています。一つ目は、ウイルスの室内への持ち込みを未然に防ぐこと。例えば、ウイルスの侵入を玄関から洗面室までに留める動線計画等です。二つ目は、換気不足を補完する工夫。具体的には換気に加え、ウイルス捕集に有効なフィルターでの室内循環を併用して換気不足を補うことが有効で<sup>※2</sup>、部屋単体はもちろん、住宅全体での対策にも必要と考えます。

当社は、創業以来60年にわたり、換気を中心とした空気質の向上にこだわり、健康快適な暮らしの実現に向けた研究・開発に取り組んでいます。「暮らし研究室」は、生活者の声に耳を傾けながら、時代の変化、暮らし方や価値観の変化を読み解き、今後もより良い住まいの提案に繋げてまいります。

## ■『室内の空気環境に関する調査』結果サマリー

### ① 生活者の8割以上が「室内での感染症対策は必要」と感じている

✓ 実際している換気方法は「窓開け換気」(78.9%)が最多。「トイレと浴室の換気扇を常時回している」(33.6%)、「24時間換気システムを利用している」(25.8%)が続く。

## ② 厚生労働省が推奨する換気基準※1を知っている人は3割以下

✓窓開け換気をしている人でも、厚生労働省が推奨する換気を実施できている人はわずか13.0%。

## ③ 厚生労働省が推奨する基準での換気が難しい理由は、寒さ、光熱費、手間が上位

✓厚生労働省が推奨する換気の基準を知ったとしても、73.7%は「実践するのは難しい」と回答。

### ■調査概要

調査対象	: 全国 20 歳～69 歳の男女
調査期間	: 2023 年 11 月 7 日(火)～11 月 9 日(木) <3 日間>
サンプル数	: 550 名
調査形態	: Web アンケート調査(株式会社ジャストシステム「Fastask」を利用)
調査主体	: パナソニック ホームズ株式会社

### ■当社の「暮らし研究室」について

日々の家事の負担を軽くするには？もっと便利な収納とは？様々な側面から住まいと暮らしについて調査・研究を実施しています。世の中やライフスタイルの変化の兆しを読み取り、暮らしのアイデアをカタチにする活動を続け、より良い住まいの提案に繋げていきます。



### 「暮らし研究室」ホームページ

<https://homes.panasonic.com/kurashi-lab/>

※1: 厚生労働省は、新型コロナウイルス感染症の集団感染のリスク要因の「換気の悪い密閉空間」に対する改善方法として、換気回数2回/h以上(30分に一回以上、数分間程度、窓を全開する)換気を推奨しています。

厚生労働省『「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法』より

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000618969.pdf>

※2: 厚生労働省は、冬場における「換気の悪い密閉空間」に対する改善方法として、窓を十分に開けられない場合は、ウイルス捕集に有効なフィルターを用いた空気清浄機を併用することを推奨しています。

厚生労働省『冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法』より

<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/000698848.pdf>

\* 本件に関するお問い合わせ先 \*

パナソニック ホームズ株式会社 宣伝・広報部 広報課 井筒

TEL: 080-8535-6640 / E-mail: izutsu.katsuhiko@panasonic-homes.com

HP: <https://homes.panasonic.com/company/news/release/>



パナソニック ホームズは 2023 年 8 月に創業 60 周年を迎えました。これまでの「感謝」を新たな「挑戦」への力に変えて、暮らしを起点に事業活動を拓げます。お客さま一人ひとりに寄り添い、心豊かな暮らしと持続可能な社会の実現を目指し、邁進してまいります。

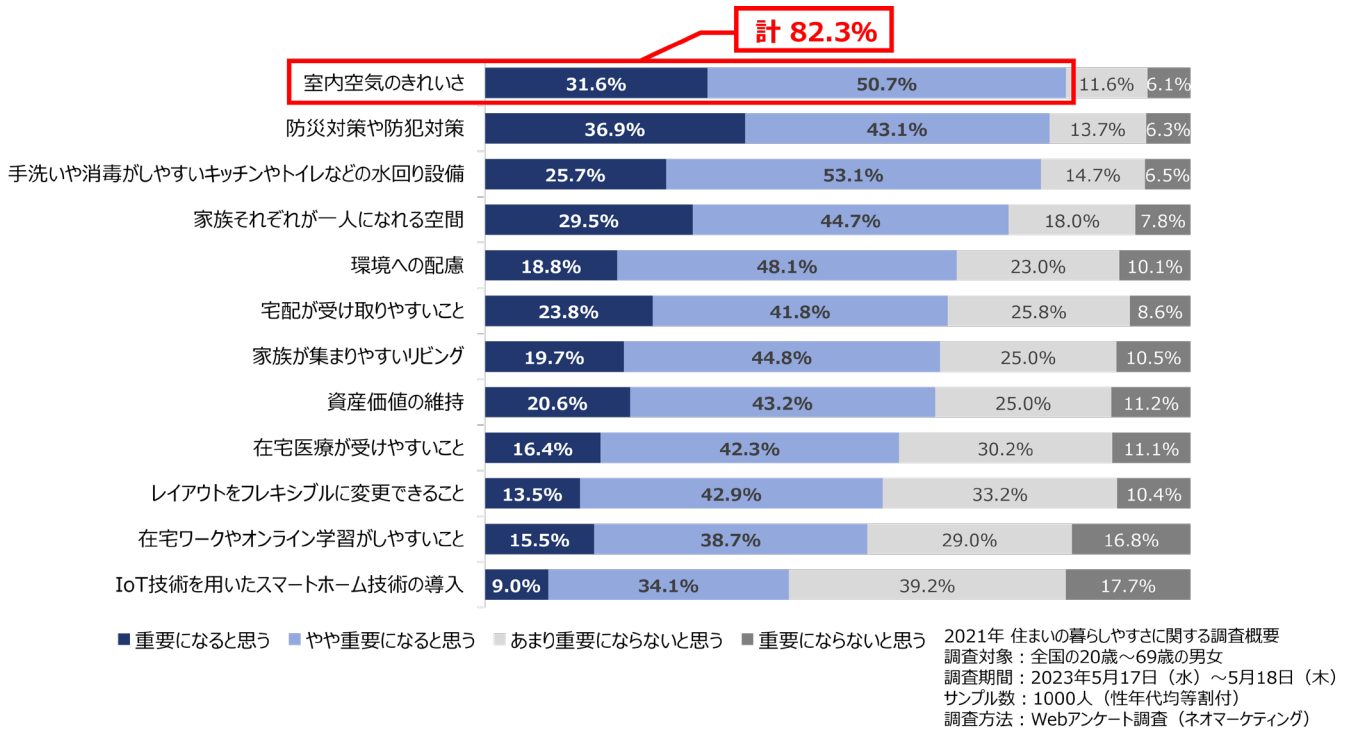
## ご参考

### ■『室内の空気環境に関する調査』実施の背景

「くらし研究室」が、2023年5月に実施した『住まいの暮らしやすさに関する調査』で「これからの住居に対して重要になると思うこと」を伺ったところ、「室内空気のきれいさ」(82.3%)が最も重要であると回答しました。(図1)

今回、上記の調査結果や、ウイルスが蔓延しやすい冬の季節の住まいにおける空気環境への意識や、きれいな空気環境を保つうえで欠かせない換気に対する認識を明らかにするために、『室内の空気環境に関する調査』を実施しました。

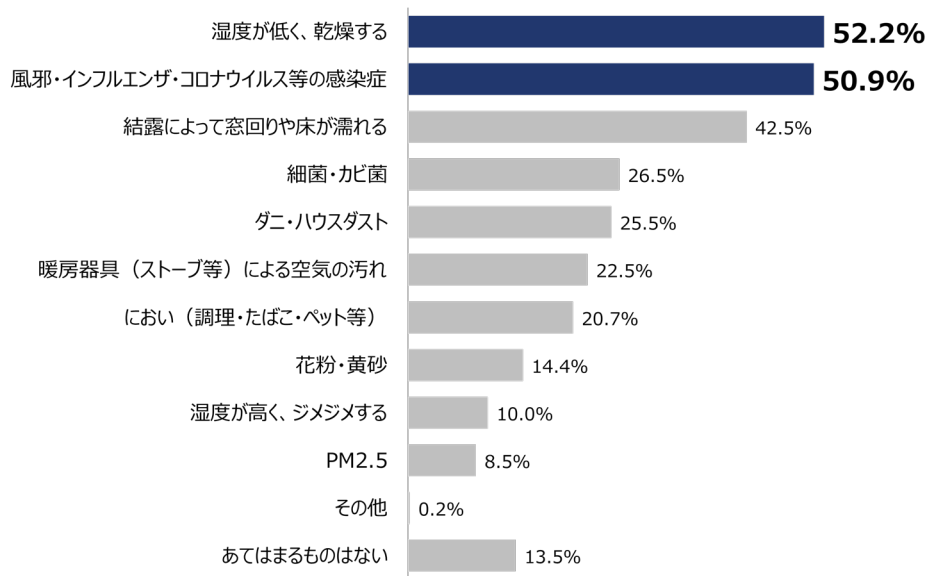
図1 これからの住居に対して重要になると思うこと(複数回答)



### ■生活者の8割以上が室内での感染症対策は必要と感じている

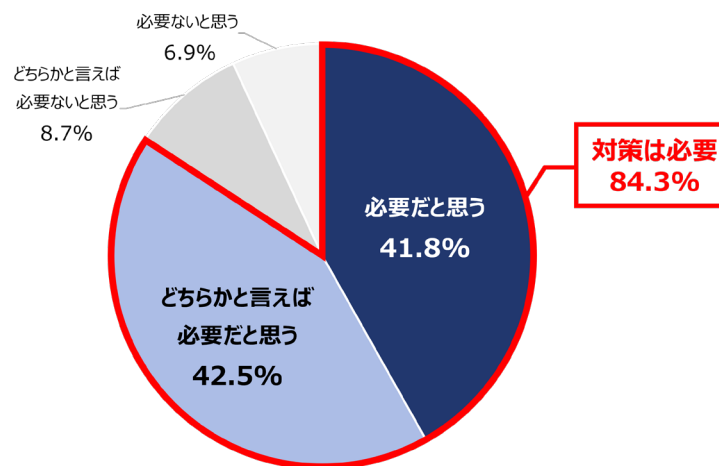
冬の部屋の空気で気になるものを伺ったところ、「湿度が低く、乾燥する」(52.2%)、「風邪・インフルエンザ・コロナウイルス等の感染症」(50.9%)を半数以上の方が回答しており、「結露によって窓回りや床が濡れる(42.5%)」、「細菌・カビ菌(26.5%)」が続きました。(図2)

図2 冬の季節、室内の空気で気になるもの（複数回答） n=550



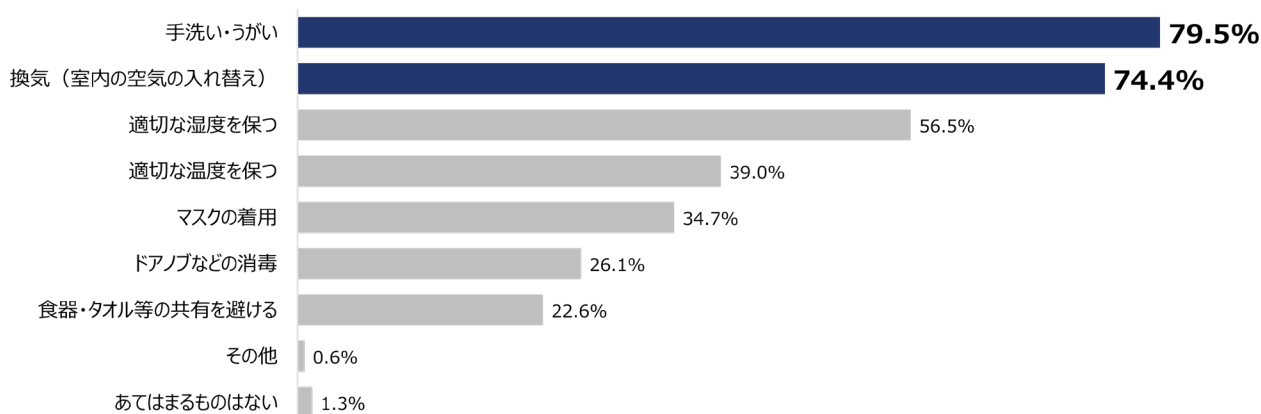
室内での感染症対策は必要と思うかを尋ねたところ、84.3%が対策は必要と回答しました。（図3）

図3 室内での感染症対策は必要だと思うか（単数回答） n=550



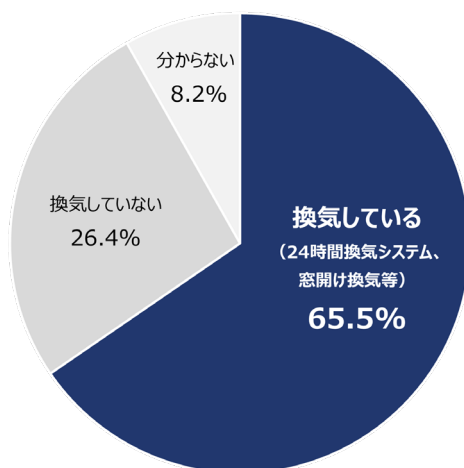
室内での感染症対策が必要と回答した人が具体的に必要だと思う対策は、「手洗い・うがい」(79.5%)と「換気」(74.4%)対策が多いことが分かりました。（図4）

図4 室内での感染症対策で必要だと思う対策(複数回答) n=464



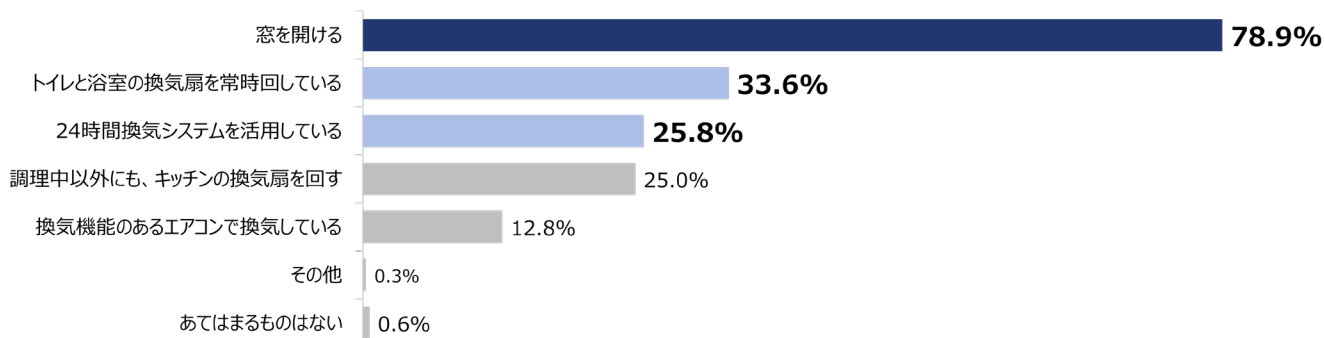
室内の換気の実施有無について尋ねたところ、65.5%は「換気をしている」と回答しました。(図5)

図5 室内の換気をしているか(単数回答) n=550



実施している換気の内容は「窓を開ける」(78.9%)が最多。「トイレと浴室の換気扇を常時回している」(33.6%)、「24時間換気システムを利用している」(25.8%)が続きました。(図6)

図6 どのような方法で室内の換気をしているか(複数回答) n=360

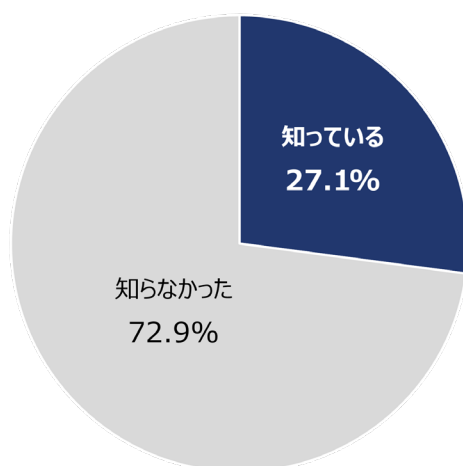


## ■厚生労働省が推奨する換気基準を知っている人は3割以下

厚生労働省は、新型コロナウイルス感染症の集団感染のリスク要因の「換気の悪い密閉空間」に対する改善方法として、換気回数2回/h以上（30分に一回以上、数分間程度、窓を全開する）換気を推奨しています。

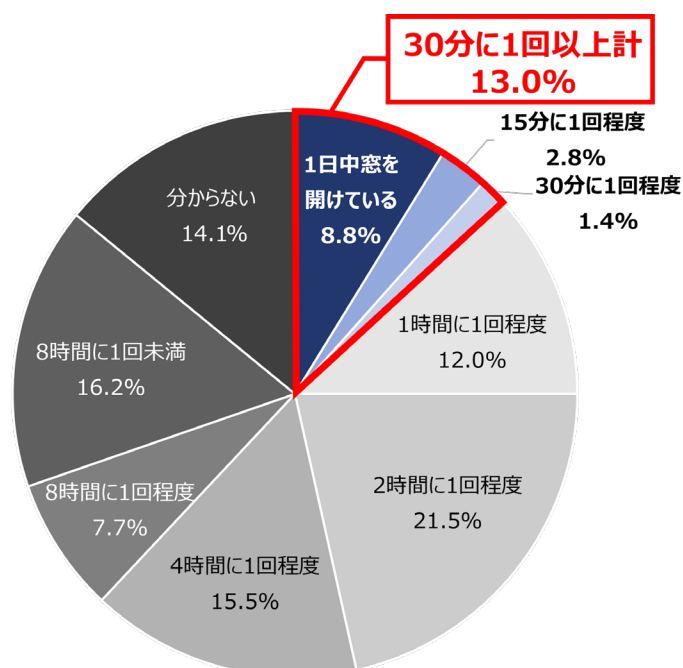
この厚生労働省が推奨する換気基準を知っているかを尋ねたところ、知っている人はわずか27.1%しかいないことが分かりました。（図7）

図7 厚生労働省が推奨する換気基準を知っているか（単数回答） n=550



換気をしている人に、どれくらいの頻度で窓開け換気をしているかを尋ねたところ、「2時間に1回程度」が最も多く、次いで「8時間に1回」が続き、厚生労働省が推奨する換気ができている人はわずか13.0%しかいないことが分かりました。（図8）

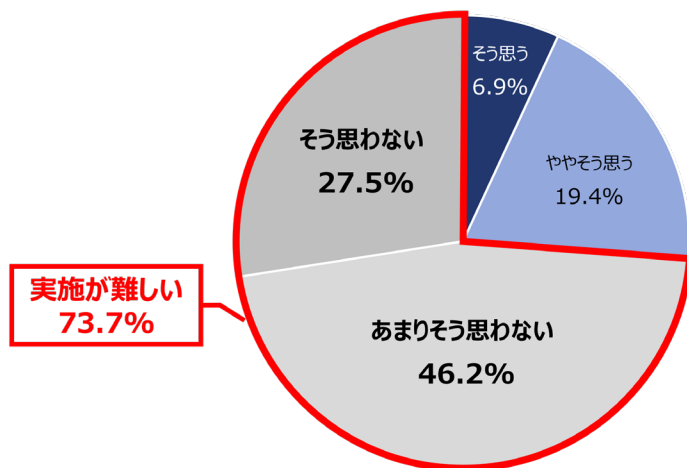
図8 どれくらいの頻度で窓開け換気をしているか（単数回答） n=284



■寒さ、光熱費、手間等の理由で、7割以上は換気回数を増やすのは難しいと感じている

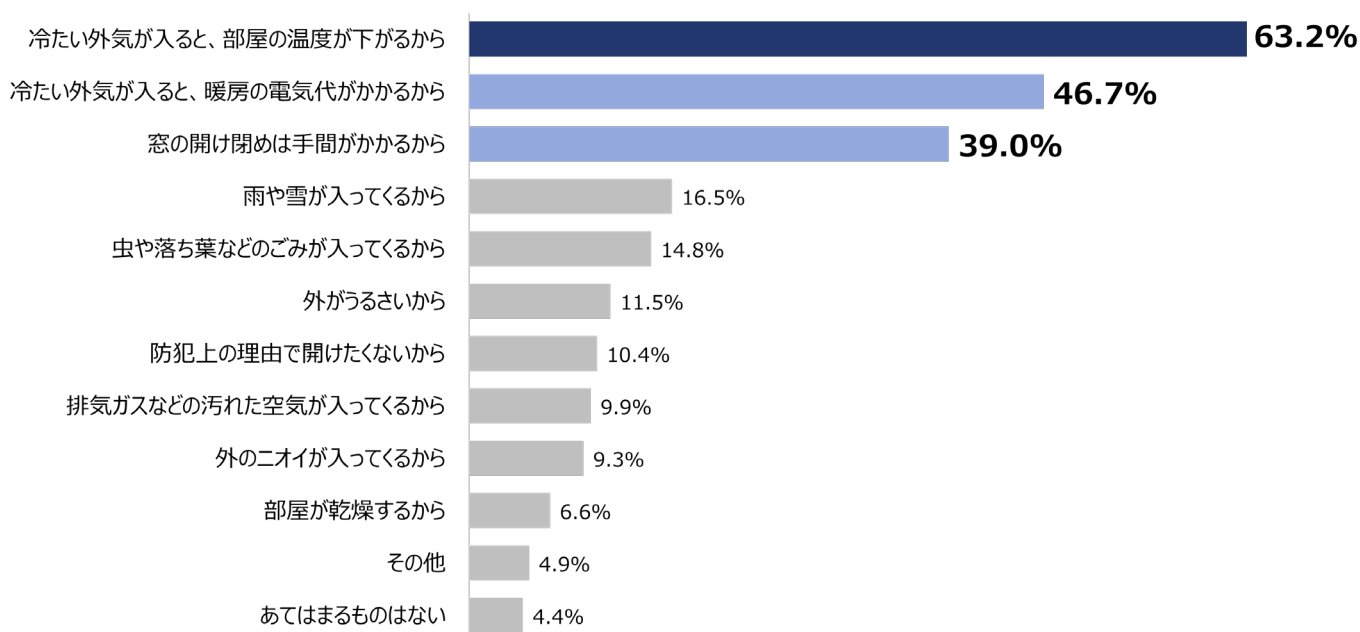
推奨する換気の基準を知ったとしても、実際に自宅で換気の基準ができるか尋ねたところ、73.7%は実施が難しいと回答しました。(図9)

図9 厚生労働省が推奨する換気の基準を実施できると思うか(単数回答) n=247



換気ができない理由は、「冷たい空気が入ると、部屋の温度が下がるから」(63.2%)が最も多く、「冷たい外気が入ると暖房の電気代が上がるから」(46.7%)、「窓の開け閉めは手間がかかるから」(39.0%)が続きました。(図10)

図10 換気ができない理由(複数回答) n=182



## ■『室内の空気に関する調査』 結果考察

今回の調査では、換気への意識は高まっているものの、十分な換気ができている人は少なく、特に冬場の室内温度の低下や光熱費への懸念、窓の開け閉めをする煩わしさから、窓開け換気による室内の空気環境を厚生労働省が推奨する基準<sup>※1</sup>に保つことを実生活で普及することには、生活者の意識上の課題があることが分かりました。その結果を受け、当社は窓開け換気が難しい場合において、以下の工夫や対策が重要と考えます。

一つ目はウイルスをいかに室内に持ち込まないように、未然に防ぐことです。

ウイルスの侵入を、帰宅後に先ず入る玄関から洗面室までに留め、除去できる動線や収納計画の工夫が必要です。例えば、玄関で外出時に身に着けていた上着やカバンなどを居室に持ち込まないように、一時置きや除菌グッズが置けるシューズインクロークの設置や、玄関から洗面室に直接繋がる配置で居室に入る前に手洗い、うがいが可能になります。

二つ目は換気不足を補完する工夫です。

単純に換気の増加だけでは室温の低下や光熱費の負担が増加してしまいます。そこで、厚生労働省では、換気に加えてウイルス捕集に有効なフィルターでの室内空気循環を併用した相当換気により、換気不足を補うことを推奨しています。感染対策と快適性の両立には、相当換気による対策が有効であり<sup>※2</sup>、その有効性は、部屋単体はもちろん住宅全体での対策にも必要と考えます。

「くらし研究室」は、今後も、生活者の声に耳を傾けながら、誰もが取り組みやすく、且つ快適な室内の空気環境のあり方を追求してまいります。

## ■当社が提案する全館空調「エアロハス」について

全館空調「エアロハス」は、専用エアコン1台で、居室だけでなく廊下や洗面室等の非居室空間も含めた全館を換気・空調するシステムです。換気空気は床下を介して地熱と熱交換した後、空調した暖房空気と混合して居室に給気されるため、換気による寒さ感に配慮した運転がなされます。また、換気空気に加え、室内の循環空気も、0.3 $\mu$ mの微粒子を99.97%以上捕集できる高性能な「HEPAフィルター」で浄化する機能も併せ持っています。

以下に、HEPAフィルターのウイルス捕集率・空気浄化に対する検証結果をご紹介します。

◎「HEPAフィルターのウイルス捕集率」に関するプレスリリースはこちら

<https://homes.panasonic.com/company/news/release/2023/0825.html>

◎「HEPAフィルターによる空間のウイルス低減」に関するプレスリリースはこちら

<https://homes.panasonic.com/company/news/release/2023/1109.html>

◎「エアロハス」の詳細はこちら

<https://homes.panasonic.com/sumai/lifestyle/airlohas/>